

水島公民館 意見交換会要旨録（人口減少社会の対策）

日 時：令和元年 11 月 26 日（火）19:10～20:00

場 所：水島公民館 2 階ホール

出席議員：山室議員、加藤議員、石田議員

山室議員

人口が減少すると色々な問題が生じてくるのは皆さんご承知のとおりだと思う。子どもが少なくなってきて部活動に支障が出ているような問題もある。地区としても町内会長を選びづらいなど、皆さんが感じている身の回りの問題など、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

参加者

人口が減るから色々なものを減らすというのは好ましくない。小中学校の統廃合の問題もあるが、人数が減っていても、うまくやっていく方法を考える必要があると思う。

公共施設を減らした場合、地域住民のよりどころがなくなってしまうことが懸念される。

山室議員

施設を減らすのが良くないというような意見だった。市としては公共施設の再編に取り組んでいるところであるが、人口減少がこのようなところにも影響が出ているということを皆さんに認識していただきたい。また、施設が減ると災害時の避難場所がなくなるという問題もある。

他にもご意見あればお伺いしたい。

参加者

空き家が増える。ひとり暮らしの方が亡くなられた場合、その家が空き家になる。どんどん増えていったらどうなるか心配である。

参加者

定住促進助成金が出ている割には、その人達がどのくらい住んでくれたのかという数字は出ていない。離婚された場合はどうなるのか。私たちはその人達がずっと小矢部で暮らしてくれたのか知りたい。平成 22 年から事業を実施しているなら、そういう数字も出るはず。一時的なお金だけ出しても定住しているかどうか疑問である。3 世代同居の助成でも、その後別居しているかもしれない。助成を受けた人に匿名でも良いのでアンケートを取って、小矢部が住みやすいかどうかなど聞けばいいと思う。若い人には住みにくいと言われる。田舎の昔の風習がなじまないという子供達がいる、仕事が無かったり。市内の企業の働く環境が整っていないので、市外や県外で就職したいという話になってくるのではないか。

山室議員

定住助成に関するアンケートを取って、出て行かれた人にはなぜ出ていったのかなど、理由などを確認して、市民に見えるようにして欲しいというような話だと思う。それによって、市のイメージアップがより強く図られるということだと思う。他にもご意見あればお伺いしたい。

参加者

今日は議会報告というよりも、行政報告のような感じを受ける。全体としての印象を言いたい。人口が減ることを想定した施策と、逆に定住人口を増やそうとしている施策があり、ブレーキとアクセルの両方を一緒に踏んでいるような感じがする。

産業が細っているから、農業と中小企業が最大の問題である。こちらで住めないのが都会に行くという流れになる。定住施策で人口を増やそうとしているが、一方で公共施設を統廃合しようとしている。そんなことをすれば、人口は益々減る。やっていることがちぐはぐである。特に議会ががんばらないといけない。議会は住民の福祉を考えてもっと言うべきことを言って欲しい。傍聴に行くと、市民からの意見書が出た場合の議論も、住民の立場で議論をしているか疑問に思うことがある。自民党の議員だから自民党が反対することはできないというような議論が出てくる。全国の知事会で、全会一致でやっているようなことでも、である。知事にも自民党の議員はいる。小矢部市として、議会がものを言うことは差し支えないと思う。議会は住民の立場に立ってやって欲しい。国に忖度する必要はない。防波堤になるようにがんばって欲しい。

山室議員

住民の意見を聞き、議会に反映するため、こういう場を設けさせていただいた。ご理解いただきたい。

参加者

2045年には24,000人ぐらいになるということだったが、市町村として成り立つにはどのくらいの人口規模が必要か。

山室議員

北海道などでは1万人の市もある。その人口で成り立っていくようにやっていく。

参加者

市はどのくらいの人口規模を維持しようとしているのか。

山室議員

第七次総合計画では、2030年頃に28,200人を維持するよう目標を立てている。ハードルは高い。出生者数も関係している。生まれてくる子ども数を見ても200人を切っている。去年は150人ほどで、今年10月現在で116人程度である。

参加者

生まれてくる子どもが少ないので難しい。出生者数を増やすことと、

定住人口を増やすことと、働き手を確保するということをやっていくということを考えると、単純に人口を増やすという議論だけをしていても市は回っていかないと思う。

山室議員

北海道のとある町では、外国人留学生を受け入れている。それにより人口が増え、一人当たり年間20万円程度の地方交付税が交付される。一人月々8千円の生活補助費を出しているが、差し引きしても10万円程度は町に残るので、そのような形で存続を図っている。小矢部市は外国人の方は2%程度であるが、今後、どのように付き合っていくかということも大切なことになってくると思う。

参加者

小矢部市は外国の方の定住という方向性も打ち出しているのか。

山室議員

それはないが、そういう技能実習生の方が500人近く来ており、今後まだまだ増えてくると思う。人手不足を補うためにも外国の方に来ていただいているのが現状である。

参加者

岡山県総社市では障害者雇用が充実した市がある。障害者雇用が増えることにより、他市から家族での移住が進んでいる。小矢部市は大家市長の時には福祉が充実していたと思っていたが、現状では障害者雇用、障害者の受け入れは少ない。そのようは方が働く場所があることによって移住者が増える。南砺市も就職先が多いので移住者が増えているという実態もある。総社市の取組も参考にして欲しい。

山室議員

視察に行った際には参考にさせていただきたい。

参加者

いつも視察と言っているが、視察に行ってもどれだけのことが小矢部市に反映されているのか、私には見えていない。

山室議員

視察に行き、本で読むだけではなく、実際の現場の声を聞かないと。

参加者

視察行く前に事前に勉強してもらわないと。

山室議員

事前に視察先のことを勉強し、質問事項も提出している。お話しいただいた総社市のことも勉強させていただきたいと思う。

人口が減ってきて、旧砺中町エリアにはスーパーもなくなり、ガソリンスタンドも少なくなっている。生活には不便になってきている。

参加者

市営バス。病院を中心に考えられているので学生は利用しづらい。市

営バスと加越能バスは同じ路線は走れないのはおかしいと思う。1時間ずつ走っていれば学生も乗れる。南砺市は同じ路線で3台ぐらい違う会社のバスが走っている。バスを充実させないと、学校も親が送っている状態である。また、今は車いすに対応していない。車いすに乗っている人はタクシーに乗るしかない。もっとバスが充実していないと高齢者も行きたいところに行けない。病院に行くにしても1回石動駅で乗り換えしないといけない。

山室議員

確かに津沢線だと1回石動駅で止まって乗り換えることになる。巡回していればそのまま乗っていただける。

参加者

学校に合わせてバスが動いていない。電車の出る時間に合わせていけば、親の送迎も不要になる。充実していないから親が送っていかないといけなくなる。バスは重要である。

山室議員

バスの充実という話も出たが、小矢部市でも高齢化率が3割を超えているので、皆さんはどう思われるか。

参加者

(周囲の声が大きく)ものが聞こえない状態で発言して申し訳ない。学校に適正規模というものがあるのか。あるようなことを言われるが、私はないと思う。そこに住んでいる子供達に行き届いた教育をするという方向で考えればいい。ところが、お金の問題がある。お金を握っている文科省が「これが適正規模です」ということを言っているだけの話である。極端な話を言えば、家庭教師をつけて、1対1でやるのがいい。実際の小矢部の子供達がどのような教育を受けるのが良いのかということも議会が考えて欲しい。自治体も適正規模があるわけではない。その住民が一番暮らしやすいように考えてもらいたい。行政よりも議会の方が自由である。議員の皆さんが、小矢部市の皆さんが何を考えて求めているのか受け止めていただきたい。

山室議員

受け止める。

参加者

国も、県も人口が減る傾向にある。ただ、15市町村でも若干増えているところもある。舟橋村の人口がなぜ増えているかということ、富山、高岡の都市計画から抜けた。自由に都市計画ができる。先見の明があった。農水省は宅地開発を自由に認めていない。高岡の人は射水に移転する。砺波市は都市計画で小さな団地をどんどん作って、人口を増やしている。小矢部市は区画整理をしながら、綾子でも宅地開発すぐできるはずだが、家が建っていない。砺波市の人に聞くと土地の単価が高すぎる

と言われる。

加藤議員

舟橋村は富山市のベッドタウンということで、水田を宅地に変更して上手くやった。小矢部市も色々やっているが、特に宅地開発を砺波市などと比べると弱い。

参加者

砺波市は大企業を呼んできていない。中小企業を呼んでいる。小矢部市は大企業ばかり呼んでくる。景気の変動による影響が大きい。

加藤議員

企業誘致もがんばっているが、すぐに成果が出るものではなく、最近では都市間競争が激しい。小矢部の魅力をどう作っていくかが重要で、一生懸命やっているところである。

山室議員

人口対策に勝者はいないと本にも書いてある。日本全体の人口が減っていて、お互いに取り合っただけにお金を投入しても意味がない。今住んでいる人がよそに行かないように、そこに魅力を作ることが大切だと思う。沖縄は出生率も高い。温かいので住みよければ住みよい。青森や秋田は人口の減少が著しい。東京は増えている。しかし、あるときに東京も人口が減っていく。高齢者が段々増えていく状況になるということである。この状況で自分たちがどのように生活をしていくか考えることも大切である。このなかでどのように地域を作っていくかが大切だと思う。先日も新聞に載っていたが、南谷で未来を語る会が行われていた。市が「こういう地域を作ってください」といってもだめだと思う。各地区で、中山間地ならば中山間地の風土がある。その風土に合った地域づくりを行っていくことも大切だと思う。

参加者

色々な話を聞いていると、富山や射水、砺波など人口が増えているところ、良いところをしっかりと勉強することが必要だと思う。住みやすい地域を作ることが大切。あれもこれも施策をやるのではなく、もう少し特徴のあることをやった方がいいと思う。そうしないと魅力のないまちになる。

山室議員

皆さん、小矢部市の魅力と言われて何か思い当たるものはあるか。

参加者

過ごしやすいかと考えると、コミュニティバス、近くは通してもらえた。しかし、「足が痛い」「腰が痛い」という方はバス停にさえ来られない。免許返納をしても加越能バスの利用券などがもらえるわけではない。とりあえずやったというようなものばかりで、過ごしやすいかと言われると過ごしにくいと感じる。砺波はスーパーの周りに家を建てれば

生活ができる。これから住んでいこうと考えた場合、過ごしやすさを考えるとそういうところを考えてしまう。砺波が近いので、車も乗れるので不自由がないが、20年後大丈夫かと考えると、先のことを考えるともっと現実的なことをやってもらいたいと思う。

また、移住した場合に補助金が出るが、本当に新しい移住者はそのうちの何パーセントなのか。一回外に出て、結婚してからまた戻ってくればいいからということで、そういうことを誰でもやっている。この制度で、まったく新規の移住者は何パーセントなのかと考えたときに、どうなのか。せつかくの制度なので、もっと良いように活用できれば。小矢部で生まれてずっと小矢部で暮らしてくれる人には補助金がないのはおかしい。

山室議員

一回出るとアパート代などもかかるので、それで相殺されるかもしれない。

参加者

転出した場合、砺波の方が住みやすいということになるかもしれない。

年を取ってからも生活がしやすいということを考えたときに、バスにしても、免許返納にしても、先に繋がるような方法を考えていかなければいけない。

参加者

今の意見に賛成である。人口対策ということで、将来に向けてものを減らすのは反対である。それよりも、現在いる人に対して暮らしやすい環境を作ることが大事である。小矢部市は1年間で300人以上人口が減っているが、世帯数は100世帯ぐらいつつ増えている。新しい人や外国人などを含めて、ここに住みたいと思う仕掛けをして欲しいと思う。補助制度や環境整備などに対する施策が必要だと思う。増やすことも大事だが、現在いる人をどういう形で将来守るかということを議会も考えてもらいたい。減らしたり統合したりすることは必ずしも望ましいとは思っていない。

山室議員

仕掛けについて何か案はあるか。

参加者

若い人に市政に関心を持ってもらうことが大事だと思う。市報についてアンケートを取って欲しい。市報を読んでいる人はほとんどいないのではないか。おそらく、家族で1人か2人しか読んでいないと思う。家族全員に読んでもらえれば、市の動きや補助制度などが分かるようになってくる。そのあたりもう少し突っ込んでやってもらいたいと思う。

加藤議員

市も、市外や県外の人に目を向けているが、今住んでいる人が大事で、今住んでいる人に「小矢部はいやだ」と思われていては意味がない。

参加者

他の市にない新しい仕掛けがあっても、予算がなくなったとか、人が減っていくということでどんどん削られていく。他の市にない小矢部市の独特の新しい仕掛けのようなものをするにより、死ぬまで小矢部にいたいという気持ちにさせる。外に発信することで小矢部に来てもらえる。仕掛け大事だと思う。最後は減らすということにもなると思うが、まだまだできることがあると思う。柔軟な発想で幅広く考えて欲しいと思う。

全体挨拶
石田議員

ご案内の時間になりましたが、まだまだ議論し足りないと思います。今回初めての試みで、皆さん全てのご意見をいただくことができませんでした。これを機会にまた、次回に向けて、どうすればいいのか検討していきたいと思います。意見を議会でまとめて、市の方に持っていきたいと思います。これをもって議会報告会を終わりたいと思います。